

●B5判の書き込み式準拠ノートです。

●予習・復習や、授業では扱えなかった教材の自習などに便利です。

※指導書付属CD-ROM内の「オンライン指導資料」にデータが入っています。

第14章

想像力がひろく世界

羅生門

芥川龍之介

教科書 214～226 ページ

◆漢字と語句の確認◆

1 漢字 傍線部の漢字は読みを、カタカナは漢字を答えなさい。

- ① 丹塗りが剥げる
- ② 紺色の服
- ③ 盗人
- ④ 町が衰微する
- ⑤ 飢え死にする
- ⑥ 憂える
- ⑦ 濁った黄色
- ⑧ 無造作
- ⑨ 語弊がある
- ⑩ 行く手を塞ぐ
- ⑪ 罵る
- ⑫ 鋼の刃
- ⑬ 喉元
- ⑭ 侮蔑の表情
- ⑮ 嘲る
- ⑯ 大ジンギがくる
- ⑰ 打ちクダク
- ⑱ オソい時間
- ⑲ ヒマをもらてあます
- ⑳ 暗い空モヨウ
- ㉑ タヤミが忍び寄る
- ㉒ コウテイ的
- ㉓ 天井のシミ
- ㉔ ひどいシュウ気
- ㉕ 花瓶に花をサす
- ㉖ ミレンを感じる
- ㉗ 大ママで歩む
- ㉘ ヘイボンな答え
- ㉙ ヘビをつかまえる
- ㉚ ケル

2 語句 傍線部の語句と同じ意味の語句を選びなさい。

- ① とりとめもない
- ア まとまりのない
- イ 意味のない
- ウ 希望のない
- ② 高をくぐる
- ア 軽く見積もる
- イ 高さを測る
- ウ 気持ちが落ち込む
- ③ 存外
- ア 案外
- イ 屋外
- ウ 言外
- ④ 冷然
- ア 落ち着いた態度
- イ 冷淡な態度
- ウ 嬉しそうな態度
- 3 語句 次の語句の対義語を書きなさい。
- ① 失望する
- ② 平凡
- 4 語句 次の語句を用いて短文を作りなさい。
- ① 大目に見る
- ② 途方に暮れる

漢字や語句などの課題を教材ごとに付しました。

教材の舞台・背景や段落の要旨などをまとめる課題です。

◆段落構成の整理◆

・次の空欄に本文中の語句を補いなさい。

●第一の場面(初め～二七・一七)

ある日の①、一人の下人が②の下で、雨やみを待っていた。都は地震や辻風、火事、飢饉などの③が相次いでいた。

主人から暇を出された下人には、行く先がなかった。しかし、④になることも、⑤することも選択しかねて、一夜を過ごそうとして、楼の上ののぼりはじめた。

●第二の場面(二二八・一～二四〇・一)

下人が楼にのぼってみると、誰かが火を動かしている。中をのぞくと、火をともした⑥を持って、⑦が⑧の髪の毛を抜いている。

下人は、六分の⑨と四分の⑩とに動かされて、しばらくは呼吸をするのをさえた。しかし、しだいに下人の心には、⑪に対する⑫が動いてきた。

●第三の場面(二四〇・一～二四四・四)

下人が老婆を捕らえて問い詰めたところ、老婆は、⑬をしないために仕方がなくすることは許されるという。⑭が生まれた。そして、

それを聞いた下人の心には⑮を奪い、老婆を蹴倒して楼の梯子をかけ下りた。

●第四の場面(二四四・五～終わり)

下人が去った後、老婆は⑯の口まで追っていった。しかし、外には⑰たる夜があるばかりで、下人の行方はわからない。

◆文脈と文意の整理◆

1 「この男のほか誰にもいない」(二四四・二)とあるが、下人しかいない状況の説明した次の文の空欄を補いなさい。

この二、三年、①に災いが続いたため、洛中はさびれ、羅生門を修理する者などいない。すると、荒れ果てたのをよいことに、捨て場所になる。そのために、人々は羅生門に近づかない。

そのうえ、制限が遅く、いつもいる②も一羽もない。ただ、③が一匹だけ円柱にとまっている。

2 下人の風貌・特徴がよくわかる、一文の最初の五字を抜き出しなさい。

□□□□□

教材読解のポイントを課題形式でまとめました。

句法などの課題を教材ごとに付しました。

文法・古語などの課題を教材ごとに付しました。

第1章

古文への扉

児のそら寝

教科書 19～21 ページ

◆文法と語句の確認◆

1 文法 次の表のワ行の空欄に、歴史的仮名遣いを、ア行にならって書き入れなさい。

ワ行		行段	ア段	イ段	ウ段	エ段	オ段
	あ		ア		い		イ
					う		ウ
						え	エ
							お
							オ

2 文法 次の傍線部を現代仮名遣いになおしなさい。

- ①よひのつれづれに
- ②寝ざらむも
- ③待ちゐたるに
- ④うれしとは思へども

⑤いまひとこゑ

⑥ただ食ひに食ふ音のしければ

⑦いらへむ

⑧おどろかせたまへ

3 語句 次の語句の意味を書きなさい。

- ①つれづれ (一九・一)
- ②わろし (同・三)
- ③いらふ (二〇・一)

第12章

読みつがれることば

朝三暮四

列子・荘子

教科書 198～199 ページ

◆語句と句法の確認◆

1 語句 次の語句の意味を答えなさい。

- ①将^{マカ}限^{リミ}ニ^ニ其^{ソノ}食^ケ。 (一九八・三)
- ②勞^{ラウ}ニ^ニ神明^{シメイ}「為^{ナシ}レ、而^{シテ}不^レ知^ル其^{ソノ}同^{トウ}」也。 (一九九・一)

2 句法 次の句法の意味と種類を、あとから記号で答えなさい。

- ①能^ス
 - ②將^{マカ}レ^シ
 - ③何^{ナニ}ヲ^ヲス^ス
- ア 何を^{ナニ}する^スのか
イ これから^{ココ}しようとする^ス・^スしたい
ウ ^スできる
- a 再読文字・意思・推量
b 可能
c 疑問
- 意味 種類
意味 種類
意味 種類

◆文脈と文意の整理◆

1 「宋有^シ狙^ソ公^{コウ}者^{シヤ}。」(一九八・一)を書き下し文にしたときの、①主語、

②述語、③連用修飾語にあたる部分を書きなさい。

①

②

③

2 副詞の①「俄」(一九八・二)と②「俄」(同・五)が本文で果たして

いる表現効果を次から選び、記号で答えなさい。

- ア 「衆狙」に考える時間を与えなかったことを表す。
- イ 「狙公」の対策が一時しのぎであったことを表す。
- ウ 状況の転換を表す一方、本旨に向かう契機としている。

3 「朝三暮四」(「列子」)の本文にある三種類の置き

- ア 強調 イ 疑問
 - ウ 対象 エ 接続
- 置き字 種類

4 「朝三暮四」(「列子」)について、「衆狙」はなぜ

- ア 夕方に実を多くもらうより、朝に多くもらうにイ実が減らされるのではないと分かったから。
- ウ あとのほうが実は多くもらえるところから。

5 「朝三暮四」(「荘子」)の方は、何を言おうとして

別冊解答つき。

解答